

センター名	中津川市地域包括支援センター		
担当地域	中津川市		
人口	74,913人		
高齢者数	65歳以上	25,110人	(内75歳以上) 14,072人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	33.5%	75歳以上高齢者割合 18.8%
介護認定率	18.0%		
現状	第三次中津川市地域保健医療計画策定時の市民アンケートにおいて「人生会議」について8割の市民が知らないと回答している。		
課題	事故や病気で意思が伝えられなくなった場合に、本人が望む医療やケアが受けられない恐れがある。		
事業名	「人生会議」の普及		
目標 (目指す姿)	「人生会議」を行うことで人生の最終段階においても本人の希望が叶えられる		
対象者(重点)	高齢者		
取り組み内容	庁内関係課・地域包括支援センターと「人生会議」の普及方法について検討。 地域包括・在宅介護支援センターによる訪問時に「人生会議」のチラシを配布して普及啓発を図る。		

第三次中津川市地域保健医療計画策定時の市民アンケート：令和4年12月24日～令和5年1月6日に実施。市内在住の18歳以上の市民1,200件に調査票郵送配布。回収率38.3%。

人生会議：将来の変化に備え、本人が望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のこと。

担当地域	中津西 中津南 中津東		
人口	26,103人		
高齢者数	65歳以上	7,939人	(内75歳以上) 4,610人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	30.4%	75歳以上高齢者割合 17.7%
介護認定者数	要介護1～要介護5	1,177人	要支援1、要支援2 366人
	事業対象者数	1人	
介護認定率	19.2%		
現状	独居・高齢世帯が増加している。 自治会や老人クラブなどの既存の団体に所属しない高齢者が増加し、住民間の関係も疎遠になってきている。		
課題	地域の団体に所属しない高齢者は社会的孤立の恐れがある。 高齢者を支える団体間で、それぞれの活動内容や把握している高齢者の生活課題が共有されていない。		
事業名	地域包括ケア推進ネットワーク会議		
目標 (目指す姿)	高齢者の暮らしを支える団体のネットワークができる。		
対象者(重点)	地域住民		
取り組み内容	地域の中にある各団体の活動内容を共有する。 地域における高齢者の課題やニーズを共有する。 どの様な地域を目指すか、地域で出来る解決方法について意見交換を行う。		

センター名	中津川市瀬戸の里地域包括支援センター			
担当地域	苗木地区			
人口	5,991人			
高齢者数	65歳以上	1,879人	(内75歳以上)	1,056人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	31.4%	75歳以上高齢者割合	17.6%
介護認定者数	要介護1～要介護5	330人	要支援1、要支援2	52人
	事業対象者数	6人		
介護認定率	20.4%			
現状	地域のなかで、参加できる場所づくりが限定されている。 各地域団体の活動内容を把握しきれていない。			
課題	高齢者にかかわる各地域団体との情報共有の機会を増やす必要がある。 地域包括支援センターの周知活動の工夫が必要。			
事業名	高齢者に関わる各団体とのネットワーク会議			
目標 (目指す姿)	見守り体制があるなかで、住み慣れた地域で安心して暮らしていくことができる。			
対象者(重点)	高齢者に関わる各団体、地域住民			
取り組み内容	各団体と情報共有の場を持ち、連携を図りながら地域の必要なニーズを汲み取り、支援センターの活用法を検討していく。			

センター名	中津川市ひだまり苑地域包括支援センター			
担当地域	坂本			
人口	13,115人			
高齢者数	65歳以上	3,645人	(内75歳以上)	2,011人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	27.8%	75歳以上高齢者割合	15.3%
介護認定者数	要介護1～要介護5	500人	要支援1、要支援2	117人
	事業対象者数	3人		
介護認定率	16.7%			
現状	各団体における高齢者支援活動は比較的活発に行われているがお互いの活動内容の把握や連携しての支援が少ない為、地域の中で連携ができるように地域包括ケアシステムネットワークの立ち上げが必要である。 認知症高齢者への理解や支援、社会参加などは十分になされていない。			
課題	地区高齢者の支援を積極的に行っている団体がいくつかあり歴史もあるため、ネットワークづくりの意義や地域包括がネットワークづくりをすることへの理解を得る方法に苦慮している。 事務局の立ち上げにむけて準備会議を予定していたがコロナ禍による会議の中止等により延期となり開催に至っていない。			
事業名	坂本地域包括ケアシステムネットワーク会議			
目標 (目指す姿)	坂本地区高齢者が認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく生活できるように継続した支援体制を構築していく。			
対象者(重点)	地区の高齢者専門機関や住民組織・民間企業など			
取り組み内容	各高齢者団体との情報交換や意見交換を行い、認知症の高齢者への支援を軸にしたネットワーク作りの説明を行っていくこととした。 事務局候補メンバーへのネットワーク立ち上げについて説明を行い事務局の決定をする。 事務局会議において本会議の在り方などを決定。			

センター名	中津川市ゆうらく苑地域包括支援センター		
担当地域	落合地区・神坂地区・瀬戸区(板橋を除く)		
人口	5,040人		
高齢者数	65歳以上	1,953人	(内75歳以上) 1,077人
高齢化率		38.8%	75歳以上高齢者割合 21.4%
介護認定者数	要介護1～要介護5	280人	要支援1、要支援2 73人
	事業対象者数	1人	
介護認定率	17.9%		
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室の参加者は毎年固定化され、参加者の年齢も80代が中心。 ・令和4年度介護予防参加者 80歳以上(65%)80歳未満(35%) ☞70歳～74歳(15%)75歳～79歳(20%)80歳～84歳(32%)85歳～89歳(21%) 90歳以上(12%) ・令和4年度介護予防教室参加者 平均年齢:84歳(70歳～92歳が参加) 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室は「年齢が高い人が参加する教室」という声がある。 介護予防教室は「介護予防＝私がまだ行くところではない」というイメージがある。 ・70代の方の参加が少ない。 ・若い年代から介護予防(フレイル予防)の啓発を行っていききたい 		
事業名	70代の方へのフレイル予防		
目標 (目指す姿)	70代の方でも気軽に参加できる介護予防教室(80歳未満 45%目標) 介護予防教室＝「年寄りが参加する教室」を「早くから取り組む介護予防教室」へ		
対象者(重点)	地域住民		
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業名を「〇〇の会」をやめ若々しさを出すネーミングへの工夫。 ・内容を体操中心型にしたり、70代に関心を持ってもらえるような「〇活」という言葉を使って内容を考えている。 ・募集の呼びかけ時には「介護予防」「介護」という言葉に抵抗がある方もいるため、介護予防＝健康づくりをアピールし、「運動」「体操」などを通じて、フレイル予防の取り組みを行っていく。 ・第2層生活支援コーディネーターと協力し、興味のある若い方へアプローチ。 ・民生委員の会議や、地域の集まりへ参加した時に、フレイル予防について説明し、事業の紹介を行う。 		

センター名	中津川市シクラメン地域包括支援センター		
担当地域	阿木		
人口	2,032人		
高齢者数	65歳以上	887人	(内75歳以上) 504人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	43.7%	75歳以上高齢者割合 24.8%
介護認定者数	要介護1～要介護5	139人	要支援1、要支援2 18人
	事業対象者数	1人	
介護認定率	17.7%		
現状	高齢化率が高い。とりわけ後期高齢者の割合が高い。 健康への関心が高い高齢者が多い。 生活支援サービスを含め、多様なサービスがある。		
課題	阿木高齢者福祉アンケート調査によると、介護が必要となった場合でも自宅で生活したいが46.2%、人生の最期を自宅で迎えたいが65.0%の回答があり、在宅生活の継続を望まれている人が圧倒的に多い。半面、実際に家族間で事前に在宅生活、終末期に関連した話をしたことがある人はほとんどいない現状がある。 ～阿木地域包括支援ネットワーク会議(通称 ごちゃませ会議)より～		
事業名	【1】在宅生活を支える為の連携会議の開催 【2】地域における人生会議の普及啓発		
目標 (目指す姿)	住み慣れた自宅で暮らしながら医療、介護等のサービスを利用し在宅生活を送ることができる。		
対象者(重点)	地域住民		
取り組み内容	(1)在宅生活を支える為の関係機関による会議の開催及び情報共有。 (2)暮らしの保健室健康講座、予防教室、サロン等の際に講話やパンフレットの配布により、地域において人生会議の普及啓発を行う。 (3)地域住民、各関係機関に対して活動内容の周知。		
現状	高齢化率が高い。とりわけ後期高齢者の割合が高い。 健康への関心が高い高齢者が多い。 認知症のある方が増えている。		
課題	阿木高齢者福祉アンケート調査によると、認知症のある人にとって阿木地区は住みやすいかとの質問に対し、「はい」31.7%、「いいえ」7.4%、「分からない」56.1%であり、認知症の方への関心が低いと考えられる。 ～阿木地域包括支援ネットワーク会議(通称 ごちゃませ会議)より～		
事業名	認知症の方が安心して生活できる地域づくり		
目標 (目指す姿)	認知症のある人やその家族が住み慣れた地域で安心して生活できる地域を目指す。		
対象者(重点)	地域住民		
取り組み内容	地域の方に認知症への関心を持っていただく為に (1)公民館や老人クラブ単位で各地域において、ビデオ等を観る機会を設ける。 (2)認知症に関する情報提供(広報誌の発行を含む。)を各関係機関で地域住民に対し行う。 認知症の方が住み慣れた地域で暮らすために (3)認知症のある人及びその家族を対象にカフェやサロンなどを開催する。また得意分野や経験を活かす機会を設ける(農作業、料理、趣味など)。その活動の情報発信をする。		

阿木高齢者福祉アンケート調査：令和3年度実施／阿木地区65歳以上の方で老人クラブ加入者693名を基本対象とし、回収率74.6%

センター名	中津川市北部地域包括支援センター			
担当地域	中津川市(加子母・付知・福岡・川上・坂下・山口・蛭川)			
人口	22,632人			
高齢者数	65歳以上	8,807人	(内75歳以上)	4,814人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	38.9%	75歳以上高齢者割合	21.3%
介護認定者数	要介護1～要介護5	1,259人	要支援1、要支援2	242人
	事業対象者数	3人		
介護認定率	16.9%			
現状	コロナ禍で交流の機会が減り、体力の低下、認知機能の低下も進み介護サービスに頼ってしまう。又交流の機会が減り高齢者のQOLの低下している。 (家族や教室参加者からの聞き取りより)			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方の交流の場が減っている。 ・趣味や好きな事を生かせる場も減っている。 			
事業名	介護予防教室の内容や開催場所を再検討し充実			
目標 (目指す姿)	交流の場や好きな事趣味を生かし元気に暮らせる地域を目指す。 介護予防教室の内容や開催場所を再検討し充実			
対象者(重点)	地域の高齢者			
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・包括で行っている介護予防教室を地域の方と一緒に開催し交流の場を増やす。 ・医療機関、薬剤師の方と共同開催し内容を充実させ健康に関心を持ってもらう。 ・介護予防教室で作品を展示するなどしてやりがいを持ってもらう。 			

人口等データは令和5年4月末時点の値
(各包括の担当地区のデータであり、資料2の行政区とは異なります)